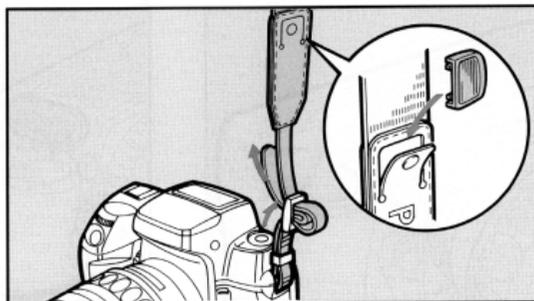


I カメラの準備と 基本操作



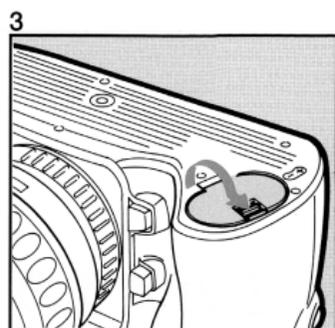
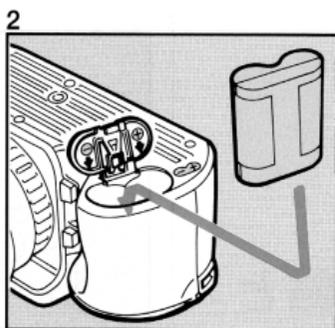
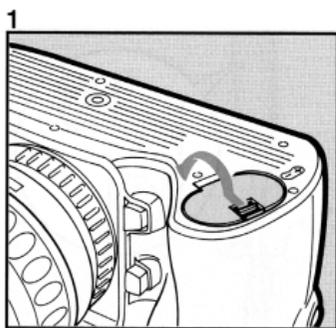
カメラの準備と基本操作

図のように、ストラップを取り付けてください。

- * ストラップの先端は、留め具の内側になるように通すと、しっかり取り付けられます。
- * ストラップのポケットは、ファインダーキャップ、レリーズソケットキャップ、ホットシューカバーなどの小物入れとしてご利用ください。

(2) 電池を入れます

カメラの準備と基本操作



1. 図のように、電池ふたの開放レバーを矢印の方向へ引いて、電池ふたを開きます。
2. 電池の金属接点側を先に、カメラの＋表示に合わせて電池を入れます。
3. 電池ふたを押さえたまま、電池ふた開放レバーを元に戻して電池ふたを閉じてください。

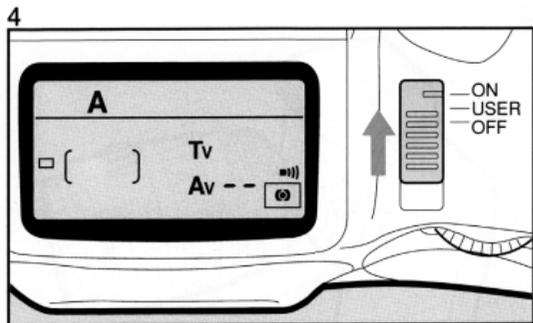
- * Z-1Pは電池で動きますから、操作をする前には、必ず決められたリチウム電池【2CR5】同等品を1個入れます。Z-1Pには、サンプルの電池が添付されていますので、この電池をお使いください。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

一般撮影	約80本
ストロボ撮影（使用率50%）	約25本
ストロボ撮影（使用率100%）	約14本
バルブ露出時間	約6時間

新品のリチウム電池【2CR5】で、当社試験条件による。(24枚撮りフィルム、常温)

- * 撮影可能フィルム本数は、使用条件によって変わりますのでご注意ください。
- * 同梱されている電池はサンプル用の電池のため、上記のフィルム本数を撮影できないことがあります。



4. 電源スイッチをユーザーポジション **USER** または **ON** にし、図のように表示パネルに表示が出ることを確認してください。

- * レンズが取り付けられているときは、別の表示が出る場合があります。
- * 123ページの「電池について」もお読みください。
- * 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、撮影できるフィルム本数が少なくなります。
- * 海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。

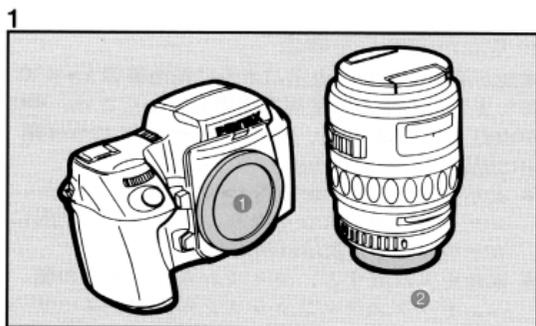
※電池が消耗した場合

電池が消耗すると、表示パネルに電池警告 が点灯します。お早めに電池を交換してください。 が点灯したままでも、シャッターが切れば露出に問題はありません。

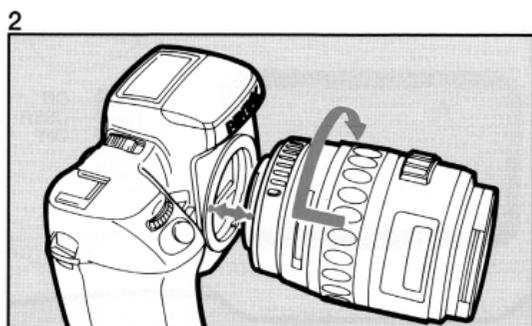
- * 表示パネルの電池警告 が点滅になると、シャッターが切れなくなり、ファインダー内に表示中のLCD表示は消灯します。
- * 電池を入れ直すと、フィルムカウンターの値、ペンタックスファンクションの内容、ユーザーポジションへのユーザーセット機能の内容およびISO感度の設定を除いて、Z-1Pの諸設定は工場出荷時の初期設定に戻ります。
- * 長時間カメラを使用していない場合、新品電池に交換しても表示パネルに電池消耗警告 が表示されることがあります。電源を入れ、シャッターボタンを半押ししてみてください。 の表示が消えれば、そのままお使いになれます。

12

(3) レンズを取り付けます

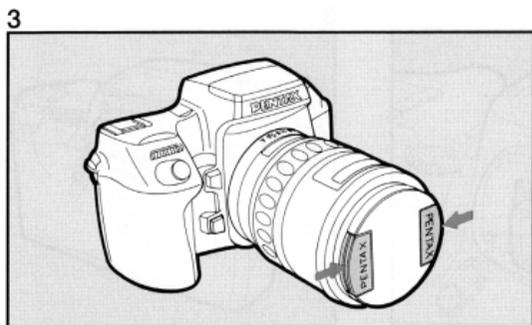


1. 図のように、①のボディカバーと②のレンズ後カバーを外します。



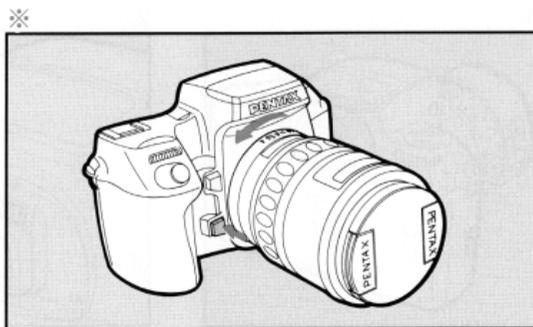
2. ボディとレンズの赤点指標を合わせて、レンズをボディのマウントにはめ込み、レンズを右に回すと「カチッ」と音がしてロックされます。

- * ボディカバーは工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。保管用には、別売りアクセサリとして「ボディマウントキャップK」が用意されています。
- * FAズームレンズの着脱は、不用意なズーム作動を防ぐため、電源スイッチを **OFF** にした状態で行なってください。



3. レンズの前キャップは、図のように矢印部分を内側に押しと外れます。

- * 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。
- * ボディやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカブラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

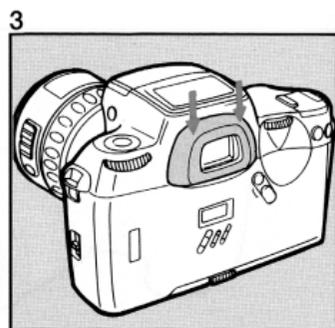
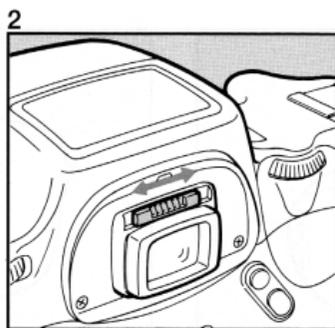
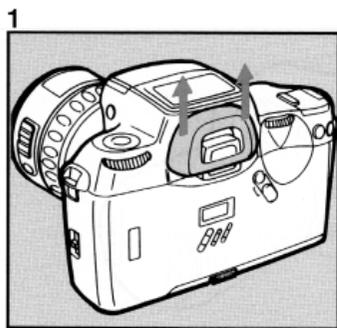


※レンズを外すには

レンズを外すときは、レンズロックボタンを押したまま、レンズを左へ回すと外せます。

- * 外したレンズは、接点やカブラーをキズ付けないようにマウント面を上にして置いてください。

(4) ファインダーの視度を調節します



1. アイカップFDを図のように取り外します。
2. カメラを明るい方へ向けて、図のように視度調整レバーを左右に動かし、ファインダー内中央のオートフォーカスフレーム [C] の線が最もはっきり見える位置に調節します。
3. 調節が終わったら、アイカップFDをファインダー接眼部のアクセサリ取り付け溝に取り付けてください。

* 取り付けるときは、アイカップFDを上から差し込むようにしてアクセサリ取り付け溝にハマ込んでください。

* 視度の調節範囲は、 $-2.5\text{m}^{-1} \sim +1.5\text{m}^{-1}$ (メートル)です。

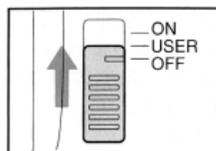
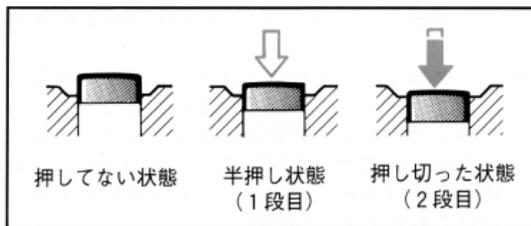
Z-1 Pのシャッターボタンは2段階になっています。

シャッターボタンを半押し(1段目まで押す)すると、露出計やオートフォーカス機構が作動します。さらにシャッターボタンを押し切る(2段目まで押す)と、シャッターが切れ撮影できます。

シャッターボタンは、カメラぶれを防ぐためにも、指の腹でゆっくり押してください。

* フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押してみて、どこまで押すと半押しになるのか、感覚をつかんでください。

* 露出計のスイッチは、シャッターボタンを半押ししてから約10秒間は指を離しても入ったままになります。なお、シャッターボタンの半押しを続けると、露出計スイッチも継続します。



電源スイッチは3段階になっています。

ON = フルスベックポジション

Z-1 Pの全ての機能が使用可能です。ただし、露出モードはペンタックスファンクション設定によって、使えるモードが異なりますのでご注意ください。(104ページ参照)

USER = ユーザーポジション (簡易撮影モード)

露出モードは絞りがA位置では、プログラム自動露出のみ。絞りがA位置以外では、絞り優先自動露出のみとなります。

その他の使用できる機能については、22ページをご覧ください。

ただし、ユーザーポジションに、任意の露出モードやその他の機能を設定することができます。(75ページ参照)

OFF = 電源OFF

使わないときは、必ずこの位置にしてください。シャッターボタンが押されると電池が消耗します。

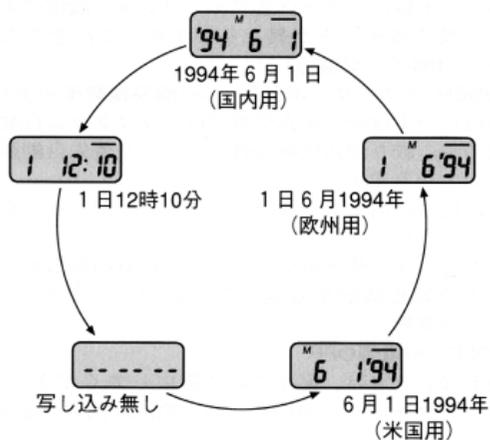
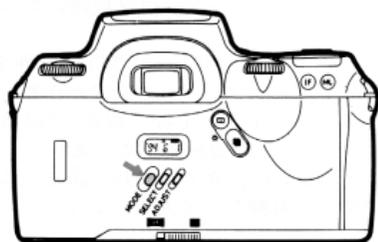
(7) データバックを使います

右図のように、矢印の**MODE**ボタンを押して、写し込みたい内容を選びます。表示は図のように

MODEボタンを押すごとに変わり、表示に出ている日付けまたは時間が写し込まれます。

Mは「月」の位置を表わしています。

—はシャッターを切ると点滅をして、日付けや時間が写し込まれたことを知らせます。



* **---**にすると何も写し込まれません。

* 日付けの表示方法は、3種類あります。

* データの写る部分(画面右下)に白や黄色のものがあると、写し込まれたデータが見えにくくなりますので、構図に注意してください。

* 日付けの修正は、100ページをご覧ください。

* パノラマ撮影モードでは、デートを写し込み可能な状態にしても、デートは写し込まれません。

* データバックの電池は、リチウム電池を使用します。データの写り込みが薄くなったり、データバックの表示窓の表示が薄くなったり、消えた場合には電池を交換してください。なお、電池の交換はお近くの当社サービス窓口にて受け付けております。(有料)

カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。

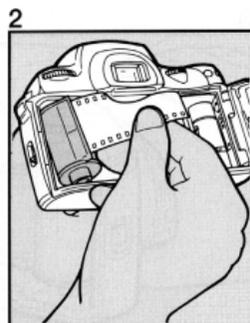
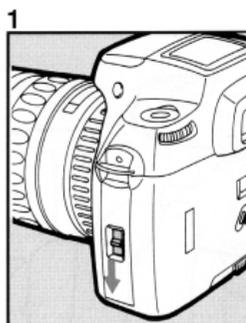
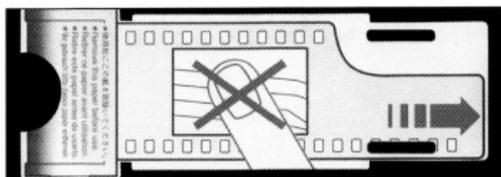
フィルム感度自動セット

このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。

[ISO25～5000までのフィルムが使えます。]

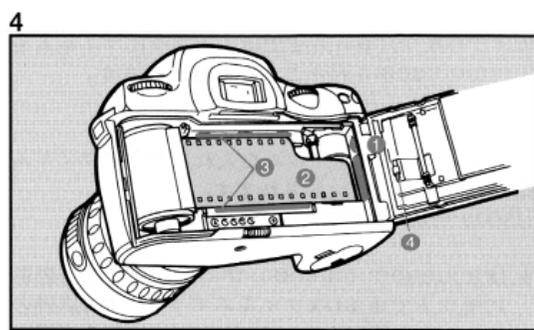
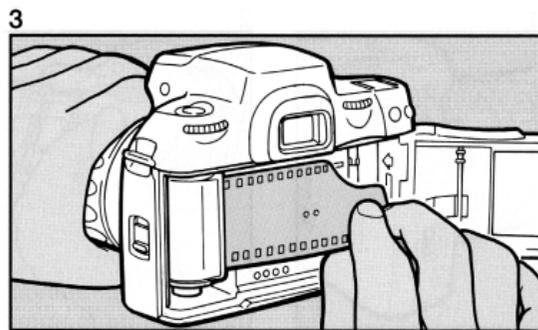
* ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルムですが、DX以外のフィルムを使用するときは、110ページをご覧ください。

* カメラを購入後、初めてフィルムを入れるときには、裏ぶたを開けて写真のような防傷カバーをシャッター幕に触れないよう注意しながら、取り外してください。



1. 裏ぶた開放レバーを矢印の方向へ下げると、裏ぶたが開きます。
2. 図のようにレンズ部分を左手でしっかり持ち、フィルムの凸部側を下にして上側から先に入れ、次に下側を入れます。

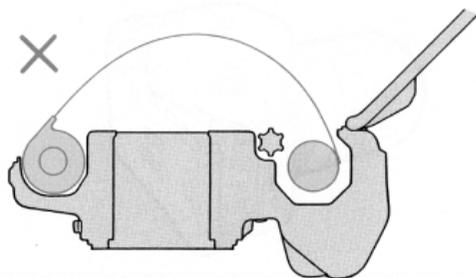
- * フィルムを入れるときは、直射日光が当たらないところで行なってください。
- * シャッター幕は非常に薄い幕でできており、精度の高いものです。手やフィルム先端などが当たりますとシャッター幕を破損させる恐れがありますので、絶対に触れないように注意してください。



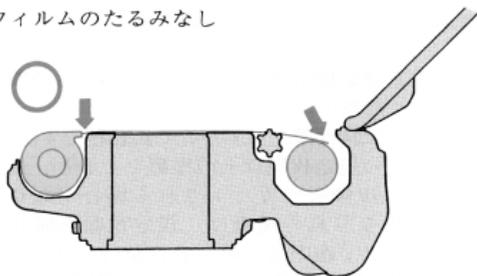
3. 左手でレンズを持ったまま指やフィルム先端がシャッター幕に触れないように気を付けて、フィルムを引き出します。フィルムを引き出し過ぎた場合は、フィルムをパトローネに戻してたるみを取ります。
- * フィルム室内のDXの情報ピンは、フィルム感度などを読み取る接点です。キズやゴミ、汚れを付けないように、注意してください。ゴミや汚れがあるときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

4. 図のように、フィルム先端部を①の赤色先端マークに合わせます。
- * フィルムの穴[パーフォレーション]を②の歯[スプロケット]に合わせ、③のガイドレール[図中、赤線部分]の間にフィルムが入っていることを確認してください。
 - * ④のローラー部分を曲げると、フィルムに傷が付きます。触らないようにご注意ください。

フィルムのたるみあり

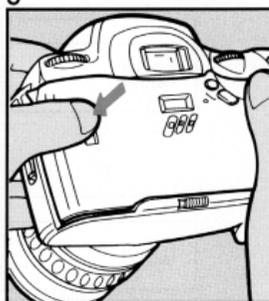


フィルムのたるみなし



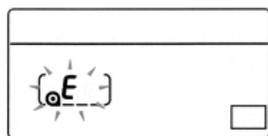
* フィルムの先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。

5



5. 裏ぶたを閉め電源スイッチを **ON** か **USER** にすると、自動的に巻き上げられます。表示パネルに **[E]** と **[0---** が出ていることを確認します。

* 表示パネルのフィルム枚数表示は、シャッターボタンを押して撮影することによって1つずつ進みます。

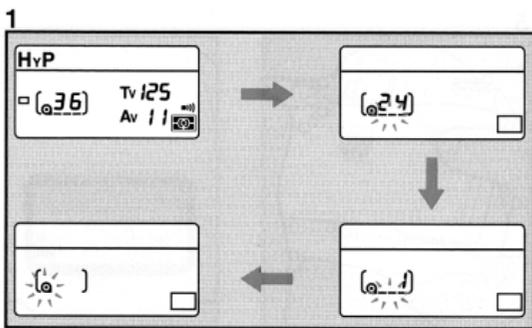


* 表示パネルに **[E---** が点滅しているときはフィルムが正しく入っていません。裏ぶたを開けて、フィルムを入れ直してください。

カメラの準備と基本操作

20

(9) フィルムの巻き戻しについて

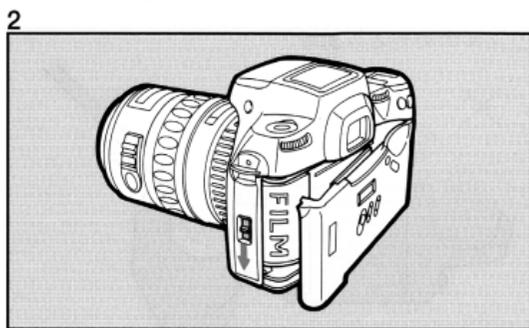


1. フィルムの最後まで撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

* ペンタックスファンクションのNO. 12の設定が選択肢の1番(フィルム終了時、自動巻き戻ししない)になっている場合は、次ページの「フィルムの途中巻き戻し」にてフィルムを巻き戻し後、フィルムを取り出してください。

* 巻き戻し中は、表示パネルの **[---** が点滅し、撮影枚数も逆算表示されます。

* 巻き戻しが終了すると、表示パネルの **[E]** が点滅し、撮影枚数の表示が消えます。この表示を確認してから、裏ぶたを開けてください。



2. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

* フィルムは直射日光が当たらないところで取り出してください。

* 巻き戻しは24枚撮りフィルムで約10秒です。

* フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。大事な写真の場合は、規定枚数を撮り終わった時点で途中巻き戻しを行ない、フィルムを取り出してください。(21ページ参照)

* ペンタックスファンクション設定で、フィルム巻き戻し完了時にフィルムの先端部分を残すようにすることもできます。(108ページ参照)

カメラの準備と基本操作